

図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第30巻2号(通巻186号) 2008.7.11

vol.30

NO.

2

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

中村寿司

2 翻訳大国からの断想 『星の王子さま』の “apprivoiser” をめぐって

春日賢 徐涛

3 私が薦めるこの1冊

図書館の仕事

4 レファレンスサービス係・工学部図書室

5 図書館レポート2008年

イチオシ!

7 データベース紹介

栗本瑞恵

8 センセイの湯豆腐

図書館からのお知らせ

編集後記

『星の王子さま』の “apprivoiser”をめぐって

文＝中村 寿司

(なかむら さとし／法学部教授)

アントワーヌ・ド・サンテグジュペリの作品『星の王子さま』は、世界160以上の言語に翻訳され、8000万部を越える発行部数を数えています。今回は、物語における最も重要な登場人物である「きつね」と「王子」の間で交わされる、ひとつの言葉について考えてみます。それは、原書（フランス語）では“apprivoiser”と表わされている語です。

地球でひとりきりになり、さびしくなった王子が、一匹の「きつね」に遊ぼうと声をかけます。すると、こんな答えが返ってきます。「僕はまだ“apprivoiser”されていらないから君とは遊べない」。そこで王子が訊ねます。「“apprivoiser”って、どうすること？」すると、「きつね」が答えます。「それは、あまりにも忘れられ過ぎていることで、〈絆（きずな）を創る〉（“créer des liens”）ということさ」。

望み通り“apprivoiser”され、仲良く過ごした後、別れに際して、「きつね」が「秘密の贈りもの」を王子に与えます。それは、「ものごとは、心で見なければ正しく見えない。大切なことは目には見えないのさ」という言葉です。作品中、最も重要と思われ、多くの読者の記憶にも残っている、心して受け止めるべき作家からのメッセージです。

サンテグジュペリは、このapprivoiserという語に〈絆を創る〉という意味を持たせ、フランス語の中に、それまでになかった新たな表現世界を切り拓いた、と言われています。その語は、元来、ラテン語のapprivatareに由来し、〈（野生のものを）家畜にする、個人のものにする〉を意味しました。出会った当初は、「人間の鶏を襲う野生動物」と、「寂しがりやの男の子」という隔絶した関係でしかなかった二人の間に、新たな状況を生み出すのが、このapprivoiserです。

内藤濯（あろう）の初訳（1953）が〈飼いならす〉であったことから、わが国では長い間、「きつね」と「王子」の関係は、動物種の下位の支配関係を色濃く反映

する、上のような訳義になっていました。その後、版権の拘束が解かれるとともに、様々な訳の試みが現れるようになりました。

〈飼いならす〉^{注1)}として、人間の側の主体性を強調する訳の一方に、〈なつく、なつかせる〉^{注2)}と言って、ことの成否を相手にゆだねる控えめな表現、また、〈なじみになる〉^{注3)}という、双方の歩み寄りをしのばせる妙訳も出てきます。最後の例などは、幼い子供に読み聞かせていて、美しい挿絵とのギャップに思わず、「ハッ!」とさせられるかも知れません（「お母さん、なじみになるってどういうこと?」「…」）。

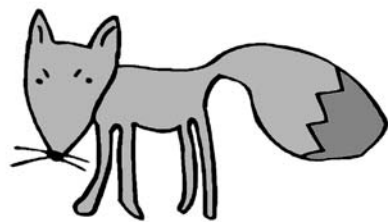
訳語を調べていて、筆者が「ハッ!」とし、最初、受け入れがたい非情さを感じたのは、奥本訳の「ペットになる」でした。…。でも、その後、「ひもをつくること」「人と動物の心と心を結びつけるひもを、見えないひもを作ることなのさ」という、寧ろ、他の訳にない「きつね」の真情が明かされるのを知って安心しました。さすが、ファールブル『昆虫記』の翻訳業を通して磨かれた日本語の新感覚、と脱帽した次第です。

『星の王子さま』は、全編、上のような内容と表現に満ちています。時々、何かに疲れた時、そつと中を覗いてみて下さい。不思議な日本語の世界が開けてきます。

注1) 山崎、小島、藤田、河原、近藤、池澤の訳。

2) 三田、野崎、河野の訳。

3) 稲垣、石井の訳。



私が薦める
この1冊

P.ドラッカー
『わが軌跡』(新訳、ダイヤモンド社、2006年)

文＝春日 賢

(かすが さとし／経営学部教授)

「人の恩恵で咲き誇るバラよりも、生垣の毒草でいたい」とは、シェイクスピアだったか。ありきたりの常識を説く正統派よりも、アクの強い異端の方がカッコよく見えてしまうのはまああるものである。ドラッカーは実務界でこそ「マネジメントを生み出した張本人」とまで評されるものの、アカデミズムにおいては必ずしも正統派といえる存在ではなかった。とはいえ彼は単なる生垣の毒草でも、口先だけの批評家でもなかった。新しい時代の予見者であり、また具体的な導き手であった。彼によってマネジメントが体系として社会一般に認知されるようになったのは事実であり、その意味では確かにマネジメントを生み出した張本人であった。

本書『わが軌跡』の原題は、『傍観者の冒険』である。ドラッカーは自らを傍観者であるとし、経営学者ではなく社会生態学者であると位置づける。自分はただ見ることが仕事、そしてそれをありのままに書き記すことが仕事だ、と。本書では戦間期における印象深い人々との交流が綴られているが、これらの人々への観察と解釈を通してドラッカーがいかにして傍観者となったのかが見え

てくる。まばゆいばかりに刺激的な日々が、機知縦横の筆致で展開される。本人もかなりノリノリで書いているが、ウィットにすぎず逆に滑っている言葉使いもふくめ、単純にいつておもしろい。彼のすべての著書にいえることだが、はぐれ者特有の陰鬱さや屈折したムードは微塵もなく、楽しさがあるだけである。自らの思うところにしたがう、そしてそのために未来を見据えて自ら行動していく、そうした「人間として生きる」ということに、彼の根本的な関心があったからなのかもしれない。彼自身は、多様性を追求してきたという。世の中は、それぞれが違うからこそ素晴らしい。個人も、組織も、社会も、同じということはありません、みんな違う。そしてそれぞれが他者と違う良い部分を出し合いながら、未来に向かって新たなものを生み出していく。ていうか、こりやマネジメントそのものじゃないか!!

出版は1979年とけっこう前だが、新訳が出たので読み返してみた。また引き込まれてしまった。う～ん、それにしてもカッコよすぎる…。

私が薦める
この1冊

関志雄
『中国を動かす経済学者たち—改革開放の水先案内人—』(東洋経済新報社、2007年)

文＝徐 濤

(じょ とう／経済学部准教授)

近年、中国経済の急速な台頭は人々の注目を集めている。「GDPは世界4位、貿易量は世界3位、外貨準備は世界1位、自動車生産は世界3位…」のように、中国経済が躍進している。しかし、経済統計だけでは30年間にわたる中国経済移行のストーリーが伝わらない。

1冊を紹介する。『中国を動かす経済学者たち—改革開放の水先案内人—』(関志雄著)である。この本は中国の経済政策論争を整理し、政府に大きな影響力を持つようになった経済学者たちの伝記を記述している。

現に中国においては金融・財政分野を中心に、周小川(中国人民銀行総裁)、易綱(中国人民銀行副総裁)、李劍閣(國務院発展研究センター副主任)、樓繼偉(元財政部副部長・現中国投資有限責任公司董事長)、郭樹清(元中国人民銀行副総裁兼外貨管理局局長・現中国建設

銀行董事長)、謝平(中国人民銀行金融穩定局局長・中央匯金公司総経理)など大勢の学者が要職につき、政策立案に力を発揮している。そして、今年、林毅夫(北京大学教授)は初めて欧米人以外の学者として、世界銀行にチーフエコノミスト兼上級副総裁に任命された。

また、2004年6月から年末までの間、大勢の経済学者を巻き込み、インターネットで大反響を巻き起こした「国有企業財産権改革大論争」が繰り広げられた。市場化・民営化の方向性に関する論争であるが、少数の人たちの独断で政策決定が行われる時代がいよいよ終焉を迎えていることを表している。

この本は、中国の経済学者の群像を丁寧かつ客観的に描写する一冊になっており、中国を理解する独特な視点を提示している。中国を知りたい方に薦めたい。

「図書館の仕事」

レファレンスサービス係

こんにちは。今回はレファレンスサービス係とみなさんが関係している仕事を紹介していきます。

レファレンスサービス係では、みなさんが探している資料を探すお手伝いをしています。図書館の使い方はもちろん、この図書館に所蔵されていない資料が欲しいとか、他の図書館に資料があるから自分で行ってみたいなど、資料検索の様々な場面でアドバイスをさせていただきます。

具体的にレファレンスカウンターでどんなことができるのかを紹介しましょう。他の図書館に所蔵している資料そのものを取り寄せて、この図書館内で見ることが出来るとか、希望資料の必要部分だけをコピーして送ってもらい自分の研究に役

立てる、他にも自分で他の図書館を利用したいときに必要となる紹介状を発行しますので、ご自分で資料を探しに行けるなど、皆さんの資料探しをできる限りサポートします。その他にも、図書館HPから利用できるデータベースの利用方法や図書館についてなど、気軽に聞いてください。

論文作成やゼミでいろいろな資料が必要な方などは、興味を持っていただけましたか？

とっても便利なレファレンスカウンターをぜひご利用ください。場所は、図書館二階の奥にあるカウンターです。

図書館へ足を運んでみませんか！！？

「図書館の仕事」

工学部図書室

こんにちは。今回はみなさんに工学部図書室のことを紹介していきたいと思います。

工学部図書室は山鼻校舎の2号館1階にあります。室内はワンフロアで構成されていて、閲覧机・開架と閉架の2層式の書庫・雑誌書架・OPAC検索用PC・AVブース・コピー機等があります。閉架地下書庫のみ別の館に設置されています。所蔵されている図書は工学系の資料が中心となっています。本館ほどではありませんが、他の分野の資料も揃っています。開架の雑誌書架には、工学系の雑誌や一般の雑誌も置いてあります。ブラウジングコーナーがあるので、ゆったりと雑誌等を読む事ができます。映像資料には、工学系の資料や一般的な映画のDVD等もあります。

サービス・カウンターでは、本館と同じように本の貸出・返却業務を行っています。本の予約・本館からの資料の取り寄せ、視聴覚資料の室内閲覧の手続き、「購入希望図書申込書」の申し込みも受け付けています。また、学外への文献複写・貸借の申し込みも受け付けています。

藻岩山が近くに感じられる工学部図書室に、ぜひ一度来てみてください。本館とはまた違った雰囲気のある図書室で、思いがけない図書との出会いがあるかもしれません。

図書館レポート

Library Report

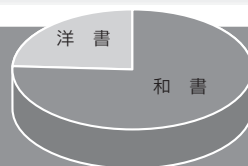
2008

蔵書冊数

(2008年3月31日現在)

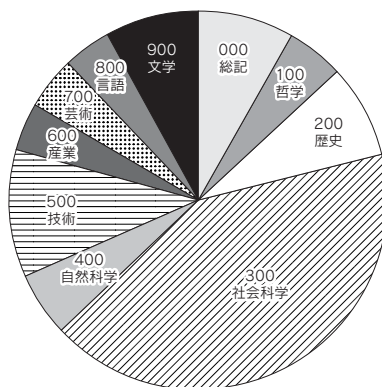
	和 書	洋 書	合 計
蔵書冊数	636,352	202,505	838,857

ちなみに 2007 (H19) 年度の 1 年間の受入図書冊数は、**25,637** 冊でした。
学術雑誌は、9000 種を超えるタイトルを所蔵しています。



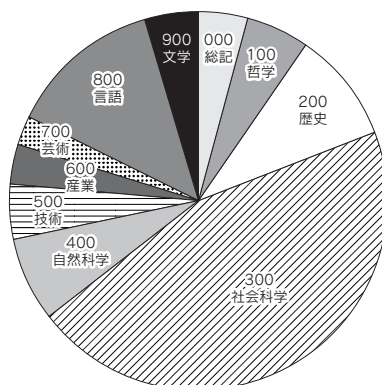
和 書

	累計(冊)	割合(%)
000 総記	8,958	8.2
100 哲学	5,437	4.9
200 歴史	8,831	8.0
300 社会科学	45,883	41.8
400 自然科学	6,018	5.5
500 技術	11,952	10.9
600 産業	4,501	4.1
700 芸術	4,906	4.5
800 言語	4,541	4.1
900 文学	8,823	8.0
計	109,850	100



洋 書

	累計(冊)	割合(%)
000 総記	983	4.2
100 哲学	1,280	5.4
200 歴史	2,237	9.5
300 社会科学	10,704	45.4
400 自然科学	1,696	7.2
500 技術	1,114	4.7
600 産業	802	3.4
700 芸術	596	2.5
800 言語	3,094	13.1
900 文学	1,093	4.6
計	23,599	100



※論文、除籍は除く

ーカウンター・サービス関係統計ー

	2005年度	2006年度	2007年度
入館者数	399,609人(1日当り1412人)	342,922人(1日当り1,216人)	336,528人(1日当り1,224人)
貸出者数	延べ37,062人(うち学生34,276人)	延べ33,066人(うち学生26,523人)	延べ31,940人(うち学生24,731人)
学生一人当りの貸出回数	4.1回	3.0回	2.7回
貸出冊数	61,810冊(うち学生55,856冊)	58,194冊(うち学生42,930冊)	58,896冊(うち学生40,538冊)
学生一人当りの貸出冊数	6.9冊	4.9冊	4.5冊
PC ブース利用者数	延べ3,197人	延べ6,266人	延べ5,008人
AV ブース利用者数	延べ4,244人	延べ5,891人	延べ6,180人

ーレファレンス・サービス関係統計ー

●学内レファレンス業務

	教職員	(前年度対比)	学 生	(前年度対比)	その他	合 計	(前年度対比)
文献所蔵調査	92	+38	131	+20	15	238	+62
事 項 調 査	0	-4	4	-5	5	9	-11
利 用 指 導	1	-9	5	-15	2	8	-22
そ の 他	6	+3	1	-1	4	11	+3
合 計	99	+28	141	-1	21	266	+32

●相互協力業務

1. 複写

	国 内	前年度対比	国 外	前年度対比	合 計	前年度対比
依 頼	453	-139	18	+3	471	-136
受 付	1,678	-6	0	±0	1,678	-6
合 計	2,131	-145	18	+3	2,149	-142

2. 貸借

	国 内	前年度対比	国 外	前年度対比	合 計	前年度対比
依 頼	156	+15	3	+2	159	+17
受 付	338	-94	0	±0	338	-94
合 計	494	-79	3	+2	497	-77

3. 文献所蔵調査

	国 内	前年度対比	国 外	前年度対比	合 計	前年度対比
依 頼	14	-4	0	±0	14	-4
受 付	9	-10	0	±0	9	-10
合 計	23	-14	0	±0	23	-14

4. 他館への利用願

	国 内	前年度対比	国 外	前年度対比	合 計	前年度対比
依 頼	40	-12	0	-4	40	-16
受 付	24	+1	0	±0	24	+1
合 計	64	-11	0	-4	64	-15

イチオシ！ データベース紹介

朝日新聞記事
データベース【聞蔵Ⅱ】



オンラインデータベースへの接続の仕方



1 図書館のホームページを開く。

2 「電子情報サービス」の中にある「学術文献データベース」（もしくは、「データベース一覧」）をクリックし、利用したいデータベースをクリックする。

データベース利用上の注意

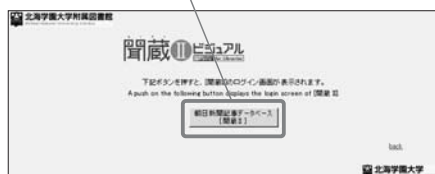
- 同時接続数に制限のあるデータベースがあります。うまく接続できなかった場合は、しばらく経ってから再度試してみてください。
- データベースの利用を終了する際は、必ずログアウトを行ってください。ログアウトの仕方がよくわからないときは、図書館職員にお尋ねください。

朝日新聞記事データベース【聞蔵Ⅱ】

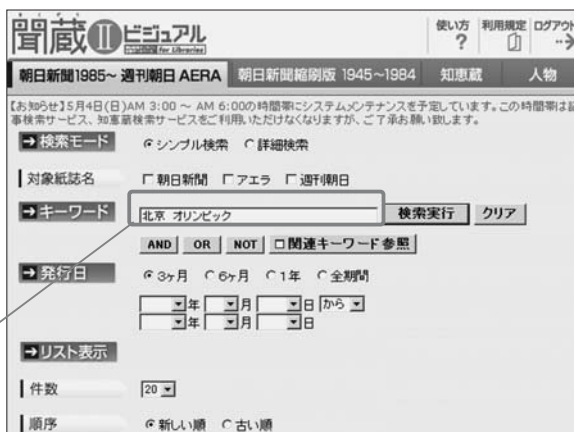
今年度より始めましたデータベース紹介ですが、今回は『聞蔵Ⅱ』をご紹介します。

このデータベースは朝日新聞の記事はもちろんのこと、雑誌『AERA』の記事も検索できるので、様々な場面で活用できるでしょう。

ログインボタンをクリックする。



ここにキーワードを入力する。



図書館では、オンラインデータベースの使い方を説明するガイダンスや、専門講師による講習会を行っています。詳しくは図書館ホームページ、館内掲示物等をご覧ください。



センセイの湯豆腐

文＝栗本 瑞恵

(くりもと みずえ／大学院 文学研究科
日本文化専攻 博士課程)

食べ物が美味しく描かれている小説は面白い。それはあながちはずれでもなく、美味しい作品とは付き合いが長い。特に、『きらきらひかる』（江國香織）、『センセイの鞆』（川上弘美）が大好きで、ことあるごとに何度も読み返している。二作品に共通して出てくるのは、美味しそうな食べ物とお酒の数々。

江國作品のお洒落な雰囲気と憧れ、コアントロー味のミニシューを食べたがった十代の頃。お酒が飲めるようになってからは、ミントジュレップやブラックルシアンをメニューで見つけてほそ笑んだ。

それに対し、手を伸ばせば届く日常のお酒と食べ物を描い

ている川上作品。ツキコさんがお酒の飲めない来客用に常備しているウィルキンソンのジンジャエールは、今では私の好物だ。昼間からセンセイがアルマイトの鍋で作ってくれる春菊と鰯入りの湯豆腐は、読むと食べたくなる。真似てみたくなる。現に読むとその日の献立は湯豆腐になる。

そうやって、食べ物を通してその作品を身近に感じ、味覚によって場面を追体験していく。それもひとつの読書の楽しみのひとつのように思う。

みなさんも美味しい食べ物を通して作品を追体験してみませんか？ あ、もちろん未成年者の飲酒はダメですよ。

休館のお知らせ

館内作業のため、下記の日程で図書館（本館、工学部図書室）を臨時休館させていただきます。
ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

平成20年9月17日(水)～9月18日(木) 9:00～17:00

なお、17:00～22:00までは通常通り開館いたします。

編集後記

最近はかなり暑くなってきました（汗）
アイスがおいしい季節の到来です。自分自身は年中無休でアイスを食べ続けていますが♪笑
ということは夏です。そうです。みなさんお待ちかね♪定期試験です。

なんて言うかと学生さんが嫌な顔をしますね。
でも試験があるから勉強するわけで、試験がなければ研究者でもない限り、なかなか勉強する機会がありません。
社会人になったら尚更です。勉強したくても時間がなかなかとれず、できなくなってしまう。今は自分の成長期間だと思って、終わっ

たら楽しい夏休みが待っていますから♪皆さん頑張ってください。
図書館でも定期試験が近づいてきているとともに毎年恒例の席取り合戦が繰り広げられています。

しかし最近掲示もしていますが、残念なことに図書館で席確保のために物を置いたままにして授業に行き、その間に盗難に合うという被害が何件か報告されています。

長時間、席を離れる時は手荷物を持参して行動するようにしてください。

利用しやすい図書館づくりのため、ご協力よろしくおねがいします♪

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第30巻2号（通巻186号）

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL (011) 841-1161（本館内線）2273・2274・2275（工学部内線）7813・7814 印刷所：(株) アイワード